

平成二十四年度「全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会」

優 秀 賞

肱川と共に生きる

大洲市立大洲南中学校 二年 永井 舞代

私の住んでいる愛媛県大洲市は、山に囲まれた盆地で、自然豊かだ。市内には、「肱川」という、全長一〇三キロメートルの、県内で最も大きい川が流れている。近くにある「富士山」の展望台から見える肱川は絶景で、五月になると、つつじと一緒に写真を撮ろうと、多くの観光客が訪れる。六月から九月には鶉飼い、七月下旬と八月上旬には、花火大会、八月中旬にはよさこい祭りなど肱川の側でたくさん行事があり、私達の暮らしの中心となっている。だが、昔から洪水がよく起こり、人々の命や大切な財産を奪ってきた。ダムや堤防を作るなど、色々な努力を先人達はしてきたが、今も洪水が多発しているのが現状だ。

私は、小学校低学年の頃、大洪水を経験した。友達やいとこの家が浸水してしまった。翌日、片付けの手伝いに行くと、道路や家中が泥だらけになっていた。そして、初めて、「自然には勝てない」ということを思い知らされた。いつも、「きれいだなあ。」と思って眺めている川だけれど、恐ろしいものでもあるということが分かった。初めて「身震い」をした。

今、改めて洪水について考え直すために、「なぜ肱川は洪水が起こりやすいのか」について調べてみた。すると、三つの理由があることが分かった。第一に、肱川流域特有の地形だ。肱川は、本流が短いのに、支流が多くある。しかも、盆地に支流が集まるとともに、各盆地をつなぐ本流は、山地を横切るため狭い谷をつくって流れる。それによって、水量が増加し、合流する支流は、流れが悪くなって逆流する

ことが多い。川の勾配の差が大きいことも、氾濫に大きく影響している。これに加えて、下流は山地を横切るために谷幅が狭くなり、満潮になると本流の流れが押さえられてしまうことから、私達の住む大洲盆地が遊水地となり、大量の水があふれてしまうのである。

第二の理由は、降水量だ。河口の長浜町は瀬戸内海に面し、降水量も少ないのに、上中流の山地は反対に降水量が多い。増水は、台風の時ばかりでなく、梅雨時の降水によっても起こっている。

第三に、上下流域の山地が崩れやすく、水をすぐに流してしまうことも影響している。特に第二次世界大戦の戦中戦後は、木材資源の需要が多く、乱伐の状態に近いほど山が荒らされた。祖父の話では、水が見えないほど川は木材の筏だらけになり、おかげで長浜は好景気にわいていたが、山は禿山になったそうだ。

このように、肱川の氾濫には地形上の理由が影響しているが、実は人間が自分達の都合で洪水を引き起こしてもいたのだ。洪水は私の悲しい思い出になってしまったけれど、やっぱり私は肱川が好きだ。楽しいイベントはいつも川であり、私達に思い出をくれるから。肱川のおいしい水の恵みで、今日という日を生きることができから。肱川は、普段は仲の良い友達のような存在であるが、たまに機嫌をそこねてしまう。きつと、人々がわがままに水を使って汚すので、怒っているのだろう。恵みを与えてもらっばかりで、私達は何もしていなかった。幼い頃は、犬の散歩をする父母につき合い、ごみを拾っていた。だが、中学生になり、多忙を理由に最近は何もしていない。あの頃、頬に受けていた川面を渡る風は、雪の日でも何だかうれしかったから、またゴミ袋を片手に、川辺へ行くつもりだ。

ずっと「肱川と共に生きる」ことができるように、私は肱川の水を愛し、大切に使い、後世の人に伝えていけるような人になりたい。そして、「私は肱川の恵みを受けて育ちました。ごみ拾いをして、少しずつ恩返しをしています。」と胸を張って言いたいと思う。